

令和3年度 さいたま市立上里小学校 学校関係者評価書

さいたま市立上里小学校

学校関係者評価委員長 平田 あつし 印

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

12人

(2) 実施回数

2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

(1) 学習への取組について

- ・児童アンケートの結果について、児童に説明してはどうか。
- ・子どもたちが静かな環境で、落ち着いて、学習に取り組むことができている。
- ・教員の話し方がいいので、授業の進め方や黒板の書き方など、よく準備をした上で授業をしていることがわかる。
- ・ICTの活用の仕方、教材教具の工夫など、学校教育の内容が大きく変わってきていると感じる。特に児童一人ひとりに貸与されるタブレットの使い方の工夫を考えてほしい。

(2) 学校行事の適切な実施について

- ・児童の安全を考慮し、地域のボランティアの方々の協力のもと、安全を確保しながら実施することができていた。ただ、高年齢化が進み、見守り活動への参加が減少していることが気になっている。
- ・遊びやふざけといじめの区別が付きにくい。いじめを見逃さないよう継続した声掛け、指導をお願いしたい。また、家庭にも知らせていく必要がある。
- ・子どもたち自身でも、登下校がしっかりできるように、学校・家庭・地域の連携を密にし、事故防止に関する取組を行っていくことが今後も必要である。
- ・学校の授業で子どもたちに伝えるだけでなく、家庭教育の観点から保護者に伝えることも重要である。これをもとに、基本的な生活を行う上で、家庭でのマナーやルールを確立するとともに、自分の命は自分で守るという安全の基本も啓発して行ってほしい。
- ・小運動会を保護者へも開放していただけてよかった。
- ・家庭においてゲームや携帯電話の使用、管理についても考えていただけるよう、学校が各関係機関と連携を取り、進めていけるとよい。

(3) 進んであいさつができる児童の育成について

- ・児童アンケートの結果を子どもたちに伝え、次年度に生かせるようしっかりと説明してはどうか。
- ・校内で出会う子どもたちは、よくあいさつをしてくれると感じる。
- ・登下校時の旗振り当番の保護者の方に対して進んであいさつができていない児童も見られる。
- ・児童・教職員は「よくできている」と感じている反面、保護者の評価が低いのは、あいさつの捉え方に差があることも考えられるが、校内ではあいさつをしていることがわかる。校外でも交通指導員や旗振り当番の保護者に対してもあいさつができるよう、学校だけでなく、特に家庭での取り組みが必要である。
- ・あいさつができない子、習慣化できない子は、家族の間であいさつができていないのか疑問である。まずは、家庭内で保護者と子どもがあいさつができるように学校からの指導が必要な時代になっている。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 児童アンケートの中の6時間目の実施については、その必要性について修了式の校長講話で説明する。
- スマートフォン等の時間管理については、次年度に携帯・インターネット安全教室を実施したり、次年度の懇談会で保護者に啓発したりする。
- 「進んであいさつができる児童の育成」については、重点的な取組を通して、保護者の意識変革を求める啓発的取組をPTAと協力しながら進め、地域全体で声を交わし合うコミュニケーション力の育成、公共心の醸成を図っていく。
- 学習への取組については、教師の授業力向上、新しい学習タブレットの活用についても研修を進め、次年度以降の学校課題研修の中で、主体的・対話的で深い学びとなる授業が行えるよう改善していく。

さいたま市立上里小学校長 梶山 崇 印

※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。